

第2回土木技術映像マラソン



3.11



今回の土木技術映像マラソンは、東日本大震災被災後1年を向かえ、会員および広く一般の方々に、防災の重要性や土木の理解をより一層深めていただくことを目的に上映会を実施いたします。1日6時間連続で出来る限り多くの映像を用意し、災害・防災に関する特集映像、また歴史的な人物やエポックとなった建造物の建設を通じて土木の原点に迫る特集を上映いたします。

2012年3月11日(日) 10:00 開演 参加無料

土木学会 講堂 (JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線「四ツ谷」駅下車徒歩5分)

講 堂

防災特集

主催者挨拶 10時

- ・崩れー大地のいとなみと私たちー
- ・阪神大震災による道路の被災と復旧
- ・JR六甲道駅復旧工事の記録
- ・昭和34年 伊勢湾台風
- ・忘れられない、東海豪雨
- ・地域の安全を守るー水無川1号砂防ダムの記録
- ・福井豪雨アーカイブス ダイジェスト編

防災講演(12時半～13時)

- ・昭和49年多摩川狛江市猪方地先災害復旧記録
- ・洪水をなだめた人々ー治水と水防にみる先人の知恵ー
- ・荒川放水路物語ー川がはぐくむ暮らしと文化
- ・川とともにー岩木川水系改良復旧工事
- ・海上保安官が見た巨大津波と東日本大震災復興支援
- ・「東日本大震災」の初動対応 東北地方整備局の3日間
- ・「三陸の奇跡」と「命の道」ー東日本大震災から学びましたー

閉会挨拶 16時頃終了予定



AB会議室

土木の原点特集

主催者挨拶 10時

- ・余部鉄橋の記憶
- ・余部橋りょう さらなる100年へ
- ・民衆のために生きた土木技術者たち
- ・青函トンネル

土木の原点講演(13時～13時半)

- ・佐久間ダム 総集編
- ・アフガンに命の水を

閉会挨拶 16時頃終了予定



HPにて参加申込み受付

<http://committees.jsce.or.jp/avc/>

土木技術映像マラソンは、CPDプログラムです。



上映作品



講堂 — 防災特集 — (100席)

主催者挨拶 10:00

■ **崩れ—大地のいとなみと私たち—** 2006年 17分 土木学会選定映像 第22回土木学会映画コンクール部門賞(一般部門)

企画:国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所,(社)全国治水砂防協会・(財)砂防・地すべり技術センター,(財)砂防フロンティア整備推進機構社団法人斜面防災対策技術協会
制作:国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所,(社)全国治水砂防協会・(財)砂防・地すべり技術センター,(財)砂防フロンティア整備推進機構社団法人斜面防災対策技術協会・NPO法人砂防広報センター

この作品は「砂防」の入門として制作されている。山々の美しい自然に恵まれた日本、しかしその一方で大規模な崩壊地が数多く存在する現状、特に「立山カルデラ」を通じて災害の恐ろしさを伝え、砂防事業の必要性を訴える事を目的としています。ナレーターとして富山県出身の女優・室井滋を起用し、また、崩壊と直面しなければならない日本の宿命を随筆『崩れ』に記した幸田文を紹介、そのゆかりの地を訪れる作家・青木奈緒氏(幸田文の孫)が登場します。

■ **阪神大震災による道路の被災と復旧** 1995年 20分 土木学会選定映像 第17回土木学会映画コンクール準優秀賞

企画:建設省近畿地方建設局 制作:日本シネセル株式会社関西支社

この作品は、阪神・淡路大震災により壊滅的な被害を受けた道路の生々しい被災状況を震災直後に調査・収録しています。被災後の応急復旧措置から幹線道路の本格復旧に至るまでの耐震設計を見直しての構造物補強、ゴム支承を使用した落橋防止工法等の施工状況を詳細に紹介しています。

■ **JR六甲道駅復旧工事の記録** 1995年 14分 土木学会選定映像

企画:西日本旅客鉄道株式会社、株式会社奥村組 制作:有限会社ウイズ

阪神淡路大震災によるRCラーメン高架橋の被害は想像を絶する甚大なものでした。この作品は、このRCラーメン高架橋の被災状況と復旧方法、線路開通までの足取りを特に被害の大きかったJR六甲道駅付近を対象としてまとめたものです。中でも早期復旧を可能とした「高架橋ジャッキアップ法」は過去に例を見ない画期的な工法であり、この復旧工法の詳細が記録されています。

■ **昭和34年 伊勢湾台風** 2009年 22分 土木学会選定映像

企画:(社)中部建設教会 制作:(株)日映映像

昭和34年(1959年)9月26日、東海地方に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風。その実態、緊急対策、災害復旧等を網羅し、復旧に向けた地域の不屈の努力と共に、伊勢湾台風土木技術者がどう立ち向かったのか。当時の建設省職員等のインタビューと記録映像によって描いています。

■ **忘れない、東海豪雨** 2010年 16分 土木学会選定映像 第24回土木学会映画コンクール優秀賞

企画:(社)中部建設教会 制作:(株)日映映像

この作品は、2000年9月11日～12日にかけて東海地方を襲った集中豪雨による大規模都市型水害の被害状況および災害復旧を記録したものです。猛烈な集中豪雨が名古屋市およびその周辺の都市を直撃し、複数箇所での堤防決壊、市内全域に及ぶ深刻な浸水被害など一時は都市機能が完全に麻痺する事態に至りました。一刻と拡大する被害状況を克明に伝えと共に、その後の被災の実態、緊急対策、復旧対策などの進捗状況を映し出しています。

■ **地域の安全を守る—水無川1号砂防ダムの記録—** 1998年 24分 土木学会選定映像 第18回土木学会映画コンクール優秀賞

企画:建設省九州地方建設局雲仙復興工事事務所 制作:ナガサキ・フォト・サービス

水無川砂防計画の基本構想に基づく砂防設備として、初めての砂防ダムとなる「水無川1号砂防ダム」が平成10年2月に竣工しました。この砂防ダムは、堤長870mと日本一のものあり、着工されてから完成するまでの経緯を、噴火災害の迫力ある映像をふんだんに採り入れて紹介したものです。

■ **福井豪雨アーカイブス ダイジェスト編** 2008年 15分 土木学会選定映像

企画・制作:福井豪雨映像アーカイブス作成委員会

平成16年7月18日未明に福井県を襲った豪雨では、福井市の中央を流れる足羽川流域を中心に各地で洪水や土石流が発生し、死者・行方不明者5名、重軽傷者19名、床上・床下を含めた浸水個数は約14,000所帯、JR越美北線の5つの橋梁が落橋するなど甚大な被害が発生しました。この作品は、想定(計画洪水流量)外の豪雨による雨量が都市を襲ったらどのような状況になるかを多くの機関や、個人の実写映像を提供してもらい、川がどう暴れるかを生々しく黙示したものです。

防災 講演 土木技術映像委員会委員長 大野春雄(防災工学)(12時半～13時)

■ **昭和49年多摩川狛江市猪方地先災害復旧記録** 2005年 32分 土木学会選定映像

企画:社団法人関東建設弘済会 制作:日映科学映画制作所 協力:関東河川技術伝承会

昭和49年(1974年)9月1日、東京都と神奈川県を流れる多摩川において、大規模な堤防決壊が発生しました。発生箇所は、河口から22.4km付近の左岸側、東京都狛江市猪方地先で、高水敷が台風16号の出水により大規模に侵食され堤防が決壊しました。災害が、東京の住宅密集地で発生したこと、堰堤爆破という非常手段がとられたことなどでセンセーショナルに報じられ注目されました。この作品は、災害の発生に際し、どのような対応が図られ実施されたかの事実をかなり詳細に記録したものです。

■ **洪水をなだめた人々—治水と水防にみる先人の知恵—** 1997年 30分 土木学会選定映像 第18回土木学会映画コンクール優秀賞

企画 株式会社文化工房 制作 株式会社文化工房

はるか遠く、川は歴史の舞台となり、今も当時を写しながら悠々と流れ続けているそして、その川との深い付き合いの中でその土地特有の風土に生きる、先人達の水防の知恵と技術を映像でたのねんに追った作品です。

■ **荒川放水路物語—川がはぐくむ暮らしと文化** 2002年 18分 土木学会選定映像 第20回土木学会映画コンクール優秀賞

企画:国土交通省荒川下流工事事務所 制作:株式会社ソラリス

荒川放水路(現在の荒川)は、流域を洪水から守るために作られた人工河川です。昭和5年に完成して以来、洪水が軽減したおかげで、流域には多くの人々が住むようになりました。この作品は、時代を追って昔の映像を利用しながら、また、現在の状況との対比をしながら紹介することにより、放水路の治水経済効果の側面である事、インフラ(土木)の整備が流域の文化を育んだことを訴えています。

■ **川とともに—岩木川水系改良復旧工事** 1980年 34分 土木学会選定映像 第9回土木学会映画コンクール最優秀賞

企画:青森県土木部河川課 制作:(株)日映科学映画製作所

この作品は、昭和50年と52年の2度にわたって大水害に見舞われた青森県岩木川上流・支川の改修工事の記録です。水害の恐ろしさとその改修の様子が、「ねぶた祭」をはじめ情緒豊かな青森の祭り等を背景に、人間味豊かに描かれています。



上映作品



海上保安官が見た巨大津波と東日本大震災復興支援 2011年 15分

協力:海上保安庁、(財)海上保安協会 発行:有限会社アートファイブ

東北地方の海上保安部・署6箇所で見られた巨大津波映像と東日本大震災復興支援のために、海上や破壊された港湾で活動する潜水士の姿を中心とした記録映像と現地取材映像です。

「東日本大震災」の初動対応 東北地方整備局の3日間 2011年 8分 土木学会選定映像

企画・制作:国土交通省東北地方整備局

3.11東日本大震災における東北地方整備局の初動対応について、特に国道4号等から、くしの歯状に被災地へ伸びる救援ルートを開閉する「くしの歯作戦」、全国から集結した災害対策機械の配備、リエゾン派遣による要望への対応、物資調達や復旧のための調整などの被災者支援を、写真や図のほか東北地整の防災ヘリ撮影による津波映像を取り込んでナレーション入りで紹介しています。

「三陸の奇跡」と「命の道」～東日本大震災から学びました～ 2011年 5分

企画・制作:釜石市・釜石市立釜石東中学校・釜石市立鶴住居(うのすまい)小学校

釜石市立釜石東中学校と鶴住居小学校の皆さんが、自分たちの言葉で、3月11日の地震発生直後の出来事を語っています。地震による大津波に襲われ、小中学校の皆さんは上へ上へと高台に逃げていきました。やっとの思いでたどり着いたのは、6日前の3月5日に開通したばかりの「釜石山田道路」。日も暮れ雪の中で救助を待っていました。45号線は不通で身動きが取れません。この状況を救ったのが釜石山田道路でした。通りかかった数台のトラックに乗り込み、約600人の生徒・児童さんは市内の体育館に避難することができました。釜石山田道路は、子供たちを救ったまさに「命の道」だったのです。

閉会挨拶 16時頃終了予定

AB会議室 — 土木の原点特集 — (60席)

主催者挨拶 10:00

余部鉄橋の記憶 2007年 27分 土木学会選定映像 第23回土木学会映画コンクール部門賞(一般部門)

企画・監修:兵庫県香美町 制作:(株)キャメル

「余部鉄橋」は1912年(明治45年)に山陰線の小さな村に完成した当時東洋一を誇る大鉄橋でした。この作品は、およそ100年もの間日本海の厳しい風雪に耐え、多くの人たちに支えられてきた鉄橋の歴史を軸に、そこに展開された人間ドラマや四季折々の美しい映像を織り交ぜながら、余部鉄橋の有終の美を貴重な土木遺産として記録・表現した作品です。明治後期から大正にかけて行われたルート選定や基礎・橋脚の建設、またその後の錆との絶え間ない闘いとそれを支える橋守の存在、地元の悲願であった餘部駅誕生の経緯などを、当時の設計技師のプロフィールや現場のエピソード、工事記録写真や図面・報告書、新聞記事などで再現するとともに、新駅誕生のニュース映画など地元の方々当時の映像も取り込んで、ていねいに表現しており、一見淡淡とした描写の中に歴史の重みとそれに関わった人々の思いが伝わってきます。

余部橋りょう さらに100年へ 2010年20分 土木学会選定映像

企画:清水建設 制作:(株)キャメル

余部(あまるべ)鉄橋は、1912年に完成したJR山陰本線に架かる我が国最大級のトレスル式橋脚を有する鉄橋で、土木学会の「近代土木遺産」のAランクに指定されています。しかし、築後100年経過したことによる耐久性の低下、1986年の列車転落事故で強化された風速規制による定時運行阻害等からコンクリート橋への架替が決定されました。この作品は、2007年3月着工後、過酷な自然環境のもと、営業線を運行しながら新橋を構築し、2010年8月12日に新たに生まれ変わるまでの工事の記録です。特に難工事の地上40m長さ90m、重さ3800tの橋桁を既設鉄橋撤去から移動、回転、中央閉合、レール接合し完成に至るまでの工事記録映像が、設計者、現場所長のインタビューを交えて列車の風景とともに楽しめるなど、理解を深めるための工夫が随所に見られ、技術的価値の高い作品です。

民衆のために生きた土木技術者たち 2005年 65分 土木学会選定映像 第22回土木学会映画コンクール最優秀賞

企画:大成建設株式会社 制作:株式会社日映企画

明治の終わりに昭和の初めにかけ、土木事業を通して苦難にあえぐ民衆を救済する、との志を持ち、卓越した土木技術を駆使して難工事に挑んだ、青山士、宮本武之輔、八田與一。この三人の生き様を通じて、「土木技術」とは何であるのか、また、土木技術者としていかにあるべきかを深く問いかける作品となっています。

青函トンネル 1985年 37分 土木学会選定映像 第12回土木学会映画コンクール最優秀賞

企画:日本鉄道建設公団(現独立行政法人運輸鉄道整備機構) 制作:北海道放送映画株式会社

今から20年前、1988年3月13日青函トンネルは津軽海峡線として開業、供用開始された。その5年前に先進導坑が貫通して本州・北海道は陸続きとなりさらに1985年3月には新幹線断面での本坑が貫通しました。現在東北新幹線は青森まで開業しており、さらに青函トンネルを通る北海道新幹線が2015年度の函館までの開業を目指して進められています。この作品は、青函トンネルの歴史と、そのトンネルがいかにして掘られたか、その調査・工事の全工程を多くの現場でのフィルムの中から編集し総集編の形で紹介した記録映画です。このトンネルがどのようにして構想され、調査され、4度にわたる異常出水・異常な膨張性地質・海底中央部での不良砂質地質等との壮絶な戦いを克服して完成されたかを見ることができます。

土木の原点 講演 東大名誉教授 高橋 裕 (河川工学・土木史) (13時～13時半)

佐久間ダム 総集編 1958年 96分 土木学会選定映像 第9回毎日映画コンクール教育文化映画賞

企画:電源開発 制作:岩波映画

青森市の東部に位置する浅虫川は、浅虫温泉および市街地を貫流しています。この作品は、この河川の治水を目的とした浅虫ダムの工事記録映像であり、ダムの必要性、計画時に留意した事柄、工事の様子などを総合的に分かりやすく紹介しています。特に、温泉源に影響を与えないためのダム形式の検討など、綿密な計画の内容が理解できる作品です。

アフガンに命の水を 2009年 56分 土木学会選定映像 第24回土木学会映画コンクール最優秀賞

企画:ベンチャーホール会 監督:平山穂波 制作:(株)日本電波ニュース社

この作品は、アフガンで長期にわたり医療活動を続けてきた医師・中村哲氏が、アフガン大干ばつや、戦乱による多数の死者に直面し、医療による人命の救助のまに、水の安定供給こそが食糧・健康・環境・生活共同体への根本的な解決への道と思い定め、独力で用水路建設に踏み切り、完成に至るまでの姿を描いたものです。現地の人々の在来技術を極力活かし、持続的なメンテナンスを地域の人々がまかなえるように配慮し、多くの困難や失敗にもめげず地域の人々とともに何度も立ち向かっていく姿勢が浮き彫りにされています。ラストシーンで現地の人々と喜びを分かち合う瞬間が映し出される映像は、命を守り生活を支える土木技術者の魂を伝えるものであり、大地の医師と呼ぶにふさわしい内容です。

閉会挨拶 16時頃終了